

第二節 貨車取扱

○社線、新線、北鮮線及國線貨車直通手續

(昭和一一、一二號)

(第二編第四類 第一編第一〇二號)

沿革 昭和八、九鐵輪甲第三七號

社線、新線、北鮮線及國線貨車直通手續左ノ通制定シ昭和十一年二月一日ヨリ之ヲ施行ス

目次

第一章 總則	七三八	第四章 保	全	七四四
第二章 貨車	七四〇	第五章 料	金	七四六
第三章 貨車附屬品	七四三	第六章 雜則		七四八
社線、新線、北鮮線及國線貨車直通手續				
第一章 總則				

第一章 總則

第一條 南滿洲鐵道株式會社鐵道部、南滿洲鐵道株式會社鐵道建設局、南滿洲鐵道株式會社北鮮鐵道管理局及鐵路總局所屬ノ貨車及貨車附屬品ヲ各線相互間ニ直通スル場合ハ特ニ定アルモノヲ除キ本手續ニ依ルモノトス

第二條 本手續ニ於テハ左ノ略稱ヲ用ウ

- 一 社線 南滿洲鐵道株式會社鐵道部所管線
- 二 新線 南滿洲鐵道株式會社鐵道建設局所管線

- 三 北鮮線 南滿洲鐵道株式會社北鮮鐵道管理局所管線
- 四 國線 鐵路總局所管線(廣軌線ヲ除ク)
- 五 部局 鐵道部、鐵道建設局、北鮮鐵道管理局及鐵路總局
- 六 局所 社線ニ在リテハ鐵道事務所營業課配車係
新線ニ在リテハ建設事務所車務係
北鮮線ニ在リテハ北鮮鐵道管理局運輸課配車係
國線ニ在リテハ鐵路局運輸處貨物科配車係
- 七 輸送主管箇所 社線ニ在リテハ鐵道部第一輸送課配車係及所管鐵道事務所營業課配車係
新線ニ在リテハ鐵道建設局工事課車務係及所管建設事務所車務係
北鮮線ニ在リテハ北鮮鐵道管理局運輸課配車係
國線ニ在リテハ鐵路總局運輸處貨物課配車係及所管鐵路局運輸處貨物科配車係
- 八 經理主管箇所 社線ニ在リテハ鐵道部經理課審查係
新線ニ在リテハ所管建設事務所車務係
北鮮線ニ在リテハ北鮮鐵道管理局經理課審查係
國線ニ在リテハ鐵路總局經理處會計課審查係

第三條 本手續ニ於テ貨車附屬品ト稱スルハ貨車用ノ覆布、綱、支柱、轉環枕木及馬積用具(馬栓棒、貨車燈、戶口綱、胸綱、仕切綱)ヲ謂フ

第四條 直通スヘキ貨車及貨車附屬品ハ特ニ定ムルモノヲ除キ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

貨車

- 一 車輛ノ限界並主要部分ノ寸法及其ノ限度ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 二 車輛ノ重量及軸距ハ各線ノ線路ニ適合スルコト
- 三 制動及連結器ノ裝置ハ各線ニ共通使用シ得ルコト
- 四 車體兩側及臺枠側梁ニ所屬線名(又ハ其ノ記號)、貨車ノ記號番號、自重、荷重並別ニ定ムル換算及計算率ノ標記アルモノ

五 標記荷重三十吨及四十吨ノモノ(冷蔵車及槽車ハ標記荷重噸數ニ拘ラス直通シ得)但シ北鮮線ニ對シテハ標記荷重三十一吨以上ノモノ及社線所屬ノヤイ、ヤシ並ヤナ型有蓋車ヲ除ク
貨車附屬品

所屬線名(又ハ其ノ記號)及番號(驛常備ノモノハ常備驛名ヲ冠ス)ヲ明瞭ニ標示シアルモノ但シ戸口綱、胸綱及仕切綱ハ此ノ限ニ在ラス

第二章 貨車

第五條 貨車ハ左ノ場合ニ直通運用ヲ爲スモノトス

- 一 各線相互間發著又ハ通過ノ貨物積ニ使用シタルトキ
 - 二 第八條ニ依ル迎車廻入ノトキ
 - 三 各線間ノ協議ニ依リ特ニ直通ヲ認メタルトキ
- 第六條 他線所屬貨車ノ使用ヲ終リタルトキハ左ノ順位ニ依リ之ヲ返還スルモノトス但シ運用上ノ都合ニ依リ關係部局間ニ於テ協議シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 往路ノ徑路ニ依ル貨車所屬線著又ハ通過貨物積ニ使用スルコト

二 往路ノ徑路ニ依ラサル貨車所屬線著又ハ通過貨物積ニ使用スルコト

三 隣接他線所屬車ニシテ直通使用セル場合ノ著驛カ當該貨車所屬線トノ接續驛ナルトキハ著驛ニ於テ之ヲ返還スルコト但シ此ノ場合當該貨車ノ所屬線側局所ノ承諾ヲ得ルコト

四 往路ノ徑路ニ在ル通過線又ハ自線(可及的遠距離)著貨物積ニ使用スルコト

五 前各號ニ依リ難キトキハ往路ノ徑路ニ依リ空車ニテ返還スルコト

前項第一號及第二號ノ場合ハ自線内何レノ方向ニモ之ヲ運用スルコトヲ得

第七條 積載貨物ノ著驛變更又ハ荷卸スルコトナク託送替ノ場合當該貨車ハ各線ヲ通シ何レノ方向ニモ之ヲ運用スルコトヲ得此ノ場合處理驛ハ所管線及貨車所屬線經理主管箇所並關係接續驛宛電報スルモノトス

第八條 他線行直通又ハ連絡貨物輸送ノ爲必要アルトキ發線ハ當該貨物ノ輸送徑路ニ當ル隣接線ニ對シ迎車ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求ヲ受ケタル當該隣接線ハ努メテ之ニ應スルモノトス

第九條 迎車ハ特ニ定ムル場合ヲ除キ積載スヘキ貨物ノ輸送徑路ニ依リ之ヲ廻入スルモノトス

迎車ハ特ニ指示スル場合ヲ除キ廻入シタル接續驛經由以外ノ貨物積ニ使用セサルモノトス

第十條 有蓋車ヲ迎車トシテ請求アリタル場合之カ廻入困難ナルトキハ特別ノ事情ナキ限り無蓋車ヲ以テ之ニ應スルコトヲ得

第十一條 甲線所屬ノ貨車ニシテ甲線ヨリ乙線ヲ通過シ甲線ニ入りタル場合乙線ハ之ヲ甲線ニ返還シタルモノトシテ處理スルモノトス二以上ノ他線ヲ通過スル場合亦之ニ準ス

第十二條 他線所屬貨車ヲ第六條及第十一條ニ依リ往路ノ徑路ニ依ラス返還シタル爲貨車所屬線ニ於テ貨車ノ偏在ヲ招來シ之カ調節ノ必要ヲ生シタル場合貨車所屬線ハ關係部局ニ對シ復路經由スヘカリシ徑路ニ依リ空車廻送方又ハ爾後關係線ヨリノ返還空車ノ返還口振替方ヲ要求スルコトヲ得

前項ノ要求ヲ受ケタル部局ハ其ノ都度所屬線ト車數其ノ他ニ付協議ノ上空車廻送ノモノニ對シテハ自線所屬車ニ準シ之ヲ廻送シ返還口振替ノモノニ對シテハ之カ返還口ヲ振替フルモノトス

第十三條 直通貨車ノ他線入込時刻ハ接續驛發、返還時刻ハ接續驛著ノ時刻ニ依ルモノトス但シ一定ノ線路ニ於テ接續線間ノ授受ヲ爲ス接續驛ニ於ケルモノハ該線路ニ貨車ヲ廻入シタル時刻ニ依ル

第十四條 他線所屬貨車ハ左ノ期間内ニ隣接線トノ接續驛ニ之ヲ返還スルモノトス但シ新線ニ在リテハ七日以内ニ返還スルモノトス

走行籽程百籽迄

三日

走行籽程百一籽以上ハ百籽又ハ其ノ未滿ヲ増ス毎ニ一日ヲ加フ

前項ノ籽程ハ本手續所定ニ依リ走行スヘキ區間ノ營業籽程ニ依リ計算シ一籽未滿ハ之ヲ一籽ニ切上クルモノトス三線以上ニ亙リ直通スル場合ニ於ケル第一項期間ハ各線各別ニ之ヲ計算スルモノトス

第十五條 貨車ノ留置ヲ爲ス情勢ニ在ルトキ他線所屬貨車ノ返送ヲ一時抑止スルコトニ依リ當該所屬線著又ハ通過貨物積ニ之ヲ利用シ得ルカ如キ場合ハ關係部局間協議ノ上之ヲ留置スルコトヲ得

前項ニ依リ留置ヲ爲シタルトキハ留置解除後遲滞ナク其ノ車種、車號、要旨及留置日數ヲ關係線經理主管箇所ニ電報スルモノトス

前項ニ依ル留置日數計算方ハ留置ヲ爲シタル當日ヨリ留置解除ノ前日迄ノ經過日數トス

第十六條 接續驛ハ一句中ニ於テ他線ニ出入及旬末日現在入込中ノ直通貨車ニ付別表様式第一號ニ依ル接續驛經由車輛報ヲ左ニ依リ作成シ翌旬五日迄ニ關係線經理主管箇所ニ提出スルモノトス

イ 接續方面ニ以上ヲ有スル接續驛ハ方面別ニ記入ノコト

ロ 貨車ノ入込順序ニ依リ記入スルコト

ハ 接續驛ニ於テ自驛ヨリ入込マサル貨車ノ返還ヲ受ケタル場合ハ往路欄ニ斜線ヲ畫シ復路欄ノミニ記入ノコト

ニ 第十二條ニ依リ空車廻送ヲ爲シタル場合ハ記事欄ニ「廻送」ト記入スルコト

ホ 第十七條ノ通知ニ依リ處理スル場合ハ記事欄ニ該通知ノ月日及返還接續驛名ヲ記入スルコト

ヘ 料金計算欄ハ經理主管箇所ニ於テ記入ス

第十七條 往路ノ接續驛ト異ル接續驛ニ於テ返還ヲ受ケタル貨車アリタル場合ハ關係線經理主管箇所ヨリ往路ノ接續驛ニ對シ當該貨車ノ車種、車號、返還月日及返還接續驛名ヲ通知ス

往路ノ接續驛ハ前項ニ依ル通知ニ基キ他線ヨリ歸著シタルモノトシテ處理スルモノトス

第三章 貨車附屬品

第十八條 直通貨車ニ使用スル貨車附屬品ハ當該貨車所屬線所屬ノモノヲ使用スルモノトス但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ他線所屬貨車ニ自線所屬貨車附屬品ヲ使用シ著驛迄之ヲ直通セシムルコトヲ得

第十九條 第十條ニ依リ有蓋車ノ迎車請求ニ對シ無蓋車ヲ廻入スル場合ハ之ニ所要ノ覆布ヲ附スルモノトス
第二十條 使用ヲ終リタル他線所屬貨車附屬品ハ左ノ場合ヲ除キ遲滞ナク往路ノ徑路ニ依リ其ノ所屬線接續驛宛返送スルモノトス但シ運用上必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國線所屬ノモノニシテ社線ヨリ返送スル場合

イ 奉天鐵路局配屬及同管内各驛常備ノモノ
ロ 吉林及哈爾濱鐵路局配屬及同管内各驛常備ノモノ
ハ 齊齊哈爾鐵路局配屬及同管内各驛常備ノモノ
ニ 奉天驛宛
三 新 京 驛 宛
四 平 街 驛 宛

第二十一條 貨車附屬品ヲ他線ニ直通使用又ハ送送スルトキハ發驛ニ於テ一車毎ニ貨車附屬品送狀（關係接續驛用寫共）ヲ貨物運送通知書送付方ニ準シ著驛ニ送付スルモノトス

接續驛ハ現品ト對照ノ上前項ノ貨車附屬品送狀ニ中繼印ヲ押捺（國線所屬ノモノニシテ社線ニ入込ム場合ヲ除ク）シ寫一通ハ之ヲ自驛ニ保存スルモノトス

第二十二條 接續驛ハ一旬中ニ於テ他線ニ出入及旬末日現在他線ニ入込中ノ直通貨車用覆布及貨車用綱ニ付別表様式

第二號ニ依ル接續驛貨車附屬品出入旬報ヲ左ニ依リ作成シ翌旬五日迄ニ接續兩線輸送主管箇所ニ提出スルモノトス
イ 接續方面ニ以上ヲ有スル接續驛ハ方面別ニ記入ノコト

ロ 接續驛ニ於テ自驛ヨリ入込マサルモノノ返還ヲ受ケタル場合ハ本報告ニ計上セサルコト

第四章 保 全

第二十三條 直通貨車及貨車附屬品ノ保全ハ其ノ所屬線ニ於テ施行スルモノトス

第二十四條 直通貨車ニ對スル運轉上必要ナル日常検査ハ始發、終著及別ニ定ムル途中ノ驛ニ於テ之ヲ行フモノトス

第二十五條 直通貨車ニ使用スル油脂ニ付テハ附屬協定ニ依ルモノトス

第二十六條 直通貨車ハ接續驛ニ於テ兩線係員立會ノ上車輛各部ノ状態ニ付嚴重ナル検査ヲ行ヒ之カ授受ヲ爲スモノトス

第二十七條 他線所屬貨車ヲ破損シタルトキハ速ニ完全ナル修繕ヲ爲スモノトス但シ貨車所屬線ニ於テ修繕スルヲ適

當ト認ムルモノハ速ニ之ヲ所屬部局ニ於テ指定スル箇所ニ返送スルモノトス

前項ノ場合貨車所在驛ハ遲滞ナク其ノ顛末ヲ貨車所屬部局ニ通報スルモノトス

第二十八條 他線所屬貨車ノ毀損ニ對シテハ之カ發生ノ原因ヲ惹起シタル鐵道ニ於テ該貨車ノ修繕費及修繕ニ要スル日數ニ對シ第三十四條ニ定ムル使用料相當額ヲ負擔スルモノトシ毀損ノ原因ヲ惹起シタル鐵道不明ノ場合ニ於ケル之カ修繕費ハ關係線ニ於テ等額分擔スルモノトス

（註）破損貨車ノ損害負擔方

貨車所屬線ノ負擔ニ歸スヘキモノ

一 貨車自體ノ構造又ハ材料ノ缺陷ニ因ルモノト認メラルモノ

二 貨車部分品中別ニ協定セル限度ヲ超エタルモノニシテ検査係員ニ於テ測定困難ナルモノ

三 同種類ノ故障又ハ破損カ當時發生スルモノナルトキ

四 貨車ノ不備ナルコトヲ認ムルモ已ムヲ得ス貨車所屬線ニ於テ直通ヲ希望シタルモノ

入込線ノ負擔ニ歸スヘキモノ

從事員ノ過失、天災事變、線路又ハ構造物ノ不備及旅客、荷主又ハ公衆ノ不法行為等貨車所屬線ニ關係ナキモノ

第二十九條 他線所屬貨車ノ日常發生シ易キ小破損ノ修繕費ハ別ニ定ムル所ニ依リ貨車所屬線ヨリ修繕施工線ニ之ヲ支拂フモノトス

前項ニ依ル修繕費ハ修繕施工線ニ於テ算定シ左ノ要項ニ依リ一箇月分ヲ取纏メ之ヲ貨車所屬部局ニ送付スルモノトス

一 修 繕 件 名
二 件 數

三 材 料 費
四 工 費
五 合 計

第三十條 他線所屬貨車修繕ノ爲貨車所屬線ヨリ修繕材料等ノ供給ヲ必要トスルトキハ實費ニ依リ相互受入ヲ爲スモノトス

前項ニ依ル修繕材料等ハ貨車所屬線最寄檢車區、檢車段又ハ機務班ニ之ヲ要求スルモノトス

第三十一條 破損シタル他線所屬貨車ニシテ自己ノ車輪ヲ以テ運轉シ得ルモノハ相互無償ニテ廻送スルモノトシ其ノ他ノ破損貨車及毀損シタル貨車ノ修繕材料並取替器具等ハ社線、新線、國線及北鮮線用書狀並用品相互運送取扱手續ニ依リ運送スルモノトス

第三十二條 第二十七條及第二十八條ニ依ル他線所屬貨車ノ破損ニ對シテハ別ニ定ムル様式ニ依リ車輛破損及故障報告(損害負擔線名及之ヲ修繕シタルトキハ其ノ修繕費ヲ記載)ヲ作成シ附屬協定ニ依リ之ヲ關係線主管箇所ニ送付スルモノトス

第五章 料 金

第三十三條 自線内ニ運用シタル他線所屬貨車ニ對シテハ各自線内ノ運賃ヲ收得シ貨車所屬線ニ對シ第三十四條及第三十八條ニ定ムル貨車ノ使用料及遲滯料ヲ支拂フモノトス

直通貨車ニ使用スル貨車附屬品ニ對シテハ相互使用料ヲ計算セサルモノトス
第三十四條 貨車ノ使用料ハ左ノ通トス
一車一日ニ付二・二五圓(半日ノ料金ハ二分ノ二分ノ一トス)

前項料金計算上生スル錢又ハ分未滿ノ端數ハ各車毎ニ之ヲ切捨ツルモノトス

第三十五條 第十二條第一項前段ニ依ル復路經由スヘカリシ徑路ニ依ル空車廻送ノ場合ハ經由線内ニ於ケル貨車使用料及遲滯料ハ之ヲ計算セサルモノトス

第三十六條 第十四條及第三十四條ノ場合ニ於ケル日數ノ計算方ハ第十三條ニ依ル入込日ノ翌日ヨリ返還當日迄ノ經過日數トス但シ入込當日中ニ返還シタル場合ハ之ヲ半日トス

第三十七條 貨車ノ料金及辨償金ノ支拂方ハ左ニ依ルモノトス
一 社線及北鮮線所屬ノモノニ對シテハ日本國幣ヲ以テ計算スルコト

二 新線及國線所屬ノモノニ對シテハ滿洲國幣ヲ以テ計算スルコト

第三十八條 他線所屬貨車ヲ第十四條ニ定ムル返還期間ヲ超過シ滯留セシメタルトキハ其ノ超過期間ニ對シ第三十四條ニ定ムル使用料ノ二倍ニ相當スル額ノ遲滯料ヲ貨車所屬線ニ支拂フモノトス但シ左ノ事由ニ因リ返還遲延シタル場合ハ其ノ原因ノ發生ヨリ除去迄ノ日數ハ之ヲ遲滯料計算期間ヨリ控除スルモノトス

一 天災事變其ノ他ノ不可抗力ニ因ルトキ

二 所屬線ノ責ニ歸スヘキモノナルトキ

三 運轉上ノ事故ニ起因スルトキ

四 修繕ノ爲休車セルトキ

五 其ノ他關係部局間ニ於テ協定シタルトキ

前項但書ニ依ル日數計算方ハ二十四時間ヲ以テ一日トシ二十四時間未滿ハ計算ヲ爲サス

第一項ニ依ル遲滯料計算期間ニ對シテハ第三十四條及第三十九條ニ依ル使用料ハ之ヲ計算セサルモノトス

第一項但書ノ事由發生シタルトキハ貨車所在部局ハ遲滯ナク其ノ車種、車號、要旨及控除日數ヲ關係線經理主管箇

所ニ電報スルモノトス
 第三十九條 他線ヨリ廻入ヲ受ケタル迎車ヲ使用セスシテ返還シタルトキハ第三十四條ニ定ムル使用料ノ二倍ニ相當スル額ノ使用料ヲ貨車所屬線ニ支拂フモノトス但シ其ノ事由カ入込線ニ於テ防止シ得サリシモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十條 第十五條ニ依ル留置日數ハ第三十四條及第三十八條ニ定ムル使用料及遲滯料計算期間ヨリ之ヲ控除スルモノトス

第四十一條 他線所屬ノ貨車附屬品ヲ所屬線ニ關係ナキ事由ニ因リ亡失シ又ハ再ヒ使用スルコト能ハサル迄ニ毀損セシメタルトキハ其ノ所屬線ノ算定ニ基キ之ヲ辨償スルモノトス

第六章 雜 則

第四十二條 社線、新線、北鮮線及國線相互間ニ直通スル客車代用貨車ノ取扱方ニ付テハ本手續ヲ準用シ第十六條ニ依ル接續驛經由車輛旬報記事欄ニハ「客車代用」ト記入スルモノトス

第四十三條 直通貨車自體ノ缺陷カ直接ノ原因トナリ發生シタル事故ニシテ入込線ノ責ニ歸セサルモノニ對スル直接ノ損害ハ當該貨車所屬線ニ於テ之ヲ負擔スルモノトス

第四十四條 社線、新線、北鮮線又ハ國線中ニ線以上ヲ通シ其ノ隣接スル他鐵道方面トノ連絡運輸貨物ヲ輸送スルトキ該連絡貨物輸送ニ關係アル鐵道所屬貨車ハ之ヲ本手續ニ依リ該他鐵道ニ隣接セル社線、新線、北鮮線又ハ國線所屬車ト看做シ直通セシムルコトヲ得但シ關係鐵道ニ於テ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ニ依ル直通ノ他鐵道所屬貨車ヲ返路使用スル場合ハ往路經由シタル該他鐵道トノ接續驛方面著貨物積ニ限ルモノトス

(第二項ニ依リ返路使用スル場合ニ於ケル他鐵道トノ接續驛ノ例)
 朝鮮總督府鐵道局所屬貨車ノ安東經由國線著ノモノハ安東、輪城經由國線著ノモノハ輪城

HHHO

(様式第一號)

接續方面別	線
取扱種別	
所屬線名	
車輛ノ種別	車

接續驛經由車輛旬報
 昭和 年 月 旬分

課長

順位 番號	車 輛		往 路				復 路				料 金 計 算		記 事	
	記 號	番 號	列 車 番 號	日 月	時 分	著 驛	盈 空 別	列 車 番 號	日 月	時 分	著 驛	盈 空 別		
1														
2														
3														
4														
5														
6														
7														

車ナルト否トニ拘ラス其ノ往復行程ニ對シ又貨車ニ在リテハ其ノ使用日數ニ對シ左ノ使用料ヲ車輛所屬線ニ支拂フモノトス但シ直通旅客列車規定編成用客車及破損車輛ニ對スル修繕材料並取換器具等ノ一車積貨車ハ此ノ限ニ在ラス

第八條ニ依ル遲滯料支拂車輛ニ對シテハ當該遲滯料計算日數ニ限り使用料ヲ計算セサルモノトス

客車 一車一籽ニ付
優等車 金 七 錢
普通車 金 四 錢

貨車 一車一日ニ付
三十匁以下 金二圓十五錢
三十匁ヲ超ユルモノ及冷蔵車 金三圓十四錢

第六條 他線所屬ノ車輛ヲ返送順路ニ非サル方向ニ使用又ハ廻送シタル場合ハ之カ爲延長セル當該車輛ノ往復行程ニ對シ左ノ反對使用料ヲ車輛所屬線ニ支拂フモノトス

客車 一車一籽ニ付
優等車 金 十四 錢
普通車 金 八 錢

貨車 同
三十匁以下 金 六 錢
三十匁ヲ超ユルモノ及冷蔵車 金 八 錢

第七條 他線所屬ノ車輛ハ其ノ使用區間ノ行程ニ應シ左ノ往復期間内ニ安東驛ニ歸著セシムルモノトス
一 客車往復期間

片道八十籽迄 一日
片道八十一籽以上百六十籽迄 二日

100

101

片道百六十一籽以上八百六十籽若ハ其ノ未滿ヲ増ス毎ニ二日ヲ加フ
二 貨車往復期間

片道四十籽迄 二日
片道四十一籽以上八十籽迄 三日

片道八十一籽以上ハ八十籽若ハ其ノ未滿ヲ増ス毎ニ一日ヲ加フ
前項ノ往復期間ハ安東驛ヨリ最初ノ到著驛迄ノ行程ニ依リ之ヲ計算スルモノトス但シ著驛變更又ハ託送替ノ場合ニ在リテハ最後ノ著驛ヲ以テ最初ノ到著驛ト看做ス

第八條 他線所屬ノ車輛ヲ前條ノ往復期間内ニ安東驛ニ歸著セシメサルトキハ其ノ超過日數ニ對シ左ノ遲滯料ヲ車輛所屬線ニ支拂フモノトス但シ遲滯ノ原因カ天災事變其ノ他ノ不可抗力ニ因ルモノ又ハ車輛所屬線ニ依リ認めラレタル事由ニ因ルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラス

客車 一車一日ニ付
優等車 金二十九圓六十八錢
普通車 金十六圓九十六錢

貨車 同
三十匁以下 金四圓三十錢
三十匁ヲ超過スルモノ及冷蔵車 金六圓二十八錢

第九條 第五條乃至第八條ノ場合ニ於ケル日數ノ計算方ハ左ニ依リ又行程計算ノ場合ニ於テ一籽未滿ノ端數ハ一使用區間毎ニ一籽ニ切上クルモノトス

一 客車

安東驛ヲ發シタル時刻ヨリ安東驛ニ歸著シタル時刻迄ノ經過時間ニ依リ一日ヲ二十四時間トシ一日未滿ハ六時間

以上ヲ一日、其ノ未滿ヲ半日トス此ノ場合發著時刻ニ時間未滿ノ端數ハ之ヲ切捨ツ
二貨車

安東驛ヲ發シタル翌日ヨリ安東驛ニ歸著シタル當日迄ノ經過日數トシ安東驛ヲ發シタル當日中ニ安東驛ニ歸著シタル場合ハ之ヲ半日トス

第十條 新義州江岸發社線方面著又ハ沙河鎮驛發局線方面著貨物十吨以上アルトキハ關係驛長ノ要求ニ依リ安東驛所
在ノ他線所屬貨車及附屬品ヲ當該驛ニ廻送使用スルコトヲ得此ノ場合廻送當日中ニ安東驛ニ歸著シタルモノニ對シ
テハ使用料ヲ計算セサルモノトス

第十一條 車輛ノ料金ハ當該車輛カ安東驛ニ歸著シタル後之ヲ計算スルモノトシ一箇月毎ニ計算材料ヲ添附ノ上車輛
所屬線ニ支拂フモノトス

第十二條 直通車輛ノ検査及注油ハ列車始發驛及主要驛ニ於テ之ヲ施行シ他線所屬ノ車輛ト雖自線所屬車輛ニ對スル
ト同様ノ注意ヲ以テ取扱フモノトス

第十三條 安東驛以外ニ於テ破損シタル他線所屬車輛ハ之ヲ原形ニ復シ返送スルモノトス但シ入場ヲ要スルモノ又ハ
車輛所屬線ニ於テ修繕ヲ爲スヲ便宜ト認ムルモノハ其ノ儘返送スルモノトス
前項ノ修繕費ハ破損ノ原因ヲ惹起シタル側ノ負擔トシ原因ヲ惹起シタル側不明ノ場合ハ局、社線折半負擔スルモノ
トス

日常發生シ易キ小破損ニ對スル修繕費ハ別ニ定ムル協定價格表ニ依リ計算スルモノトス

第十四條 安東驛ニ於テ破損シタル車輛ニ對スル修繕費ハ當該車輛所屬線(貸借車輛ハ借受線ノ所屬ト看做ス)ニ於テ
之ヲ負擔スルモノトス但シ安東ニ於テ施工スル修繕費ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第十五條 破損ノ程度大ニシテ入場ヲ要スルカ又ハ代車ノ用意ヲ要スルトキハ車輛所屬線最寄運輸事務所又ハ鐵道事
務所ニ即時其ノ狀況ヲ通報スルモノトス

第十六條 直通車輛修繕ノ爲車輛所屬線ノ補修品ヲ要スル場合ハ實費ニ依リ相互受入ヲ爲スモノトス

第十七條 前條ニ依ル補修品及破損車輛ハ無貨ニテ之ヲ輸送スルモノトス但シ關稅及其ノ他ノ料金ヲ要スルトキハ補
修品ハ之ヲ受入ルル側ニ於テ又破損車輛若ハ其ノ部分品ハ返送スル側ニ於テ支拂ヲ爲シ第十三條及第十四條ノ修繕
費ニ準シ負擔スルモノトス

第十八條 直通貨車ニ使用スル貨車附屬品ハ安東驛ニ於テ各所屬線ノモノト取換フルモノトス但シ已ムヲ得サルモノ
ハ著驛迄直通使用スルコトヲ得此ノ場合使用ヲ了リタル後直ニ安東驛宛返送スルモノトス

第十九條 他線所屬ノ客車備品及貨車附屬品ヲ紛失又ハ毀損セシメタルトキハ相當料金ヲ所屬線ニ辨償スルモノトス
第二十條 直通車輛ヲ局社線ヲ通シ連絡運輸ヲ爲ス隣接鐵道へ直通セシメタルトキハ該隣接鐵道ハ之ヲ局又ハ社線ト
看做シ局社線間ニ於テ處理スルモノトス

○大連甘井子埠頭發昭和製鋼所專用線機械積石灰石輸送貨車限定

沿革 昭和一〇、五鐵一輸甲第二四號

(昭和一一、四鐵一輸甲第一六號)

大連甘井子埠頭發昭和製鋼所專用線機械積石灰石輸送ニ使用スル貨車ニ付左ノ通限定ス
一 使用貨車

積載品種

使用貨車

大塊(百二十耗節下)

鑛石車及タシ、タロ型石炭車

中塊(九十耗節下)

鑛石車及タシ、タロ、タナ型石炭車

小塊(五十耗節下)

鑛石車及タサ、タシ、タコ、タロ、タナ型石炭車

二 著 驛

大官屯(撫順セメント株式會社專用線卸モノニハタシ型石炭車ヲ除ク)及一般撒積鑛石ヲ運送スル場合ノ著驛
昭和十年九月鐵一輸甲第六十一號貨(二限ル)
(物輸送手續細則及說明第三十六參照)

○非常車使用手續 (大正一、一〇六號)
(運輸甲第一〇六號)

○檢衡車取扱手續 (大正一三、七)
(鐵機甲第二號)

(第四編第二類車輛參照)

○宿營車取扱手續 (大正九、一七一)
(運輸甲第一七號)

(第六編工務第四類線路參照)

第三節 雜

○貨物防濕用具取扱手續 (昭和五、一五二號)
(鐵貨甲第五一號)

改正 昭和六、四鐵貨甲第三號 昭和六、六鐵貨甲第二七號
同 八鐵營甲第一二號 同 九鐵營甲第三四號
同 〇、八鐵一輸甲第三九號 同 一、九鐵一輸甲第八三號

貨物防濕用具取扱手續左ノ通制定シ昭和五年十一月十日ヨリ之ヲ施行ス

貨物防濕用具取扱手續

第一章 總 則

第一條 貨物防濕用具(以下防濕用具ト稱ス)ノ取扱ハ特ニ定メアル場合ノ外本手續ニ依ルヘシ

第二條 本手續ニ於テ防濕用具ト稱スルハ貨物ノ防濕ニ使用スル覆布(以下覆布ト稱ス)、安平及下敷用枕木(以下枕木ト稱ス)ヲ謂フ

第三條 鐵道事務所ハ様式第一號ニ依リ所管內各驛ニ於ケル次年度ノ防濕用具所要見込數ヲ驛別種類別ニ調査シ毎年三月末日迄ニ之ヲ鐵道部第一輸送課ニ報告スヘシ

第四條 常備驛ニ於テ所要數ニ不足ヲ生スルトキ又ハ常備ナキ驛ニ於テ之カ必要ヲ生シタルトキハ其ノ事由、數量及使用期間ヲ具シ所管鐵道事務所ニ請求スヘシ

第五條 鐵道事務所ハ前條ノ請求ニ對シ其ノ必要ヲ認メタルトキハ鐵道部物品取扱手續(以下物品手續ト稱ス)ニ依リ貸借又ハ保管轉換ノ手續ヲ爲サシメ其ノ旨鐵道部ニ報告スヘシ但シ所管內ニテ之カ請求ニ應シ得サル場合ハ其ノ事由、數量及使用期間等ヲ具シ鐵道部第一輸送課ニ請求スヘシ